

相模原商工会議所 景気観測調査結果

(令和5年1月～3月)

飲食・サービス業と小売・卸売業を中心に、業況の回復が進む。各業種において、電気代を始めとしたコスト高と人手不足が懸念材料となっている。

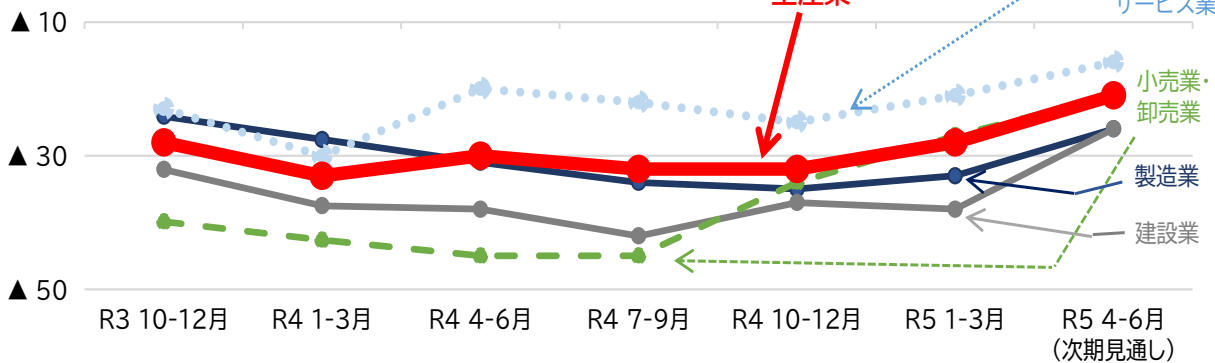
ポイント

- ▶ 令和5年1月～3月期の総合業況DIは▲28と、前期▲32から4ポイントの改善であった。飲食業・サービス業(前期▲25・今期▲21)は回復に転じた。小売業・卸売業(前期▲34・今期▲27)は、前期に引き続き改善。製造業(前期▲35・今期▲33)と建設業(前期▲37・今期▲38)は前期とほぼ変わらなかった。
- ▶ コメントによると、引き続き仕入れ・資材の高騰、電気料金や燃料費の値上がりの影響は続いている。コスト高分の価格転嫁については、業種や会社によって状況が異なるようである。景況の回復とともに人手不足は深刻化し、パートを始めとした労働時間の制約を緩和してほしいという声が増えている。
- ▶ 次期見通しについては、総合業況DIは▲21と、今期▲28から7ポイントの改善の見込み。飲食業・サービス業(今期▲21・次期▲16)を始めとして、小売業・卸売業(今期▲27・次期▲21)、製造業(今期▲33・次期▲26)、建設業(今期▲38・次期▲26)と、すべての業種で改善が進み「小雨」の業況となる見込みである。

各業界から寄せられたコメント

- ・【金属加工業】原材料費の高騰では、材料費の見直しは快く受け入れてくれるが、電気代、切削油なども上がっている為、コスト高が加工費にくい込んでいます。
- ・【管工事業】民間、公共ともに購買が低下し、発注工事が少なく、金額もやや低い。設備投資的ではなく、壊れてから発注という傾向が強い。
- ・【米菓製造販売】昨年末の需要期は、コロナの行動制限解除で、前年より好転。引き続き、年度末需要に期待。
- ・【不動産仲介・企画、建築設計】少しずつ、営業が上向き、契約に結び付く感じはある。

業況別(総合判断) DI値の推移



	前年同期概要 (R4.1-3)	前々期概況 (R4.7-9)	前期概況 (R4.10-12)	今期概況 (R5.1-3)	次期見通し (R5.4-6)
製 造 業	▲ 28	▲ 34	▲ 35	▲ 33	▲ 26
建 設 業	▲ 38	▲ 42	▲ 37	▲ 38	▲ 26
小 売 業 卸 売 業	▲ 43	▲ 45	▲ 34	▲ 27	▲ 21
飲 食 業 サ ー ビ ス 業	▲ 30	▲ 22	▲ 25	▲ 21	▲ 16
全 業 種 (総 合)	▲ 33	▲ 32	▲ 32	▲ 28	▲ 21

業況天気図凡例				
DI値 31以上	DI値 30～11	DI値 10～▲10	DI値 ▲11～▲30	DI値 ▲31以下

調 査 期 間 : 令和5年1月1日～3月31日
回 答 率 : 23.5% 回 答 者 数 : 887件
調 査 対 象 : 当所会員事業所3,780事業所

<<景気観測調査>>

前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。